Crescendo

MEDIKIT ARTS CENTER くれっしぇんど

2020.10
vol.140

メディキット県民文化センター 広報誌
MEDIKIT ARTS CENTER

宮崎国際音楽祭 特別公演
オータム・クラシック2020

歌劇『400歳のカストラート』

劇場の公演がもっと楽しくなる
ホールの座席を徹底解剖！

「ここはどこでしょう？」第5弾は、劇場正面玄関。「みやざき花いっぱいプロジェクト2020」の一環でフラワーオブジェを展示中です。カボチャは本物とのことで「食べられるのかな…？」と皆さん、興味津々です。

宮崎国際音楽祭 特別公演

オータム・クラシック 2020

miyazaki music festival

2020年11月25日(水)・28日(土)・29日(日)

メディキット県民文化センター
(宮崎県立芸術劇場)アイザックスターンホール

コロナ渦のなかなんとか開催できないかと模索した末に断念した、第25回宮崎国際音楽祭。たくさんのお客様や演奏家の方などからの励ましの声をいただきました。そして今回、ようやく第25回音楽祭で予定していたプログラムの一部を特別公演として開催することになりました。出演者には、第25回宮崎国際音楽祭に参加予定だった国内演奏家らが登場し、ベートーヴェン生誕250周年を記念したプログラムや、毎回人気のポップス・オーケストラなど、3つの公演をお届けします。

©K.Miura

Program 1
11/25(水)
19:00 開演
アイザックスターンホール

ベートーヴェン賛歌 I
～『田園』・愛と喜びの風景～

ベートーヴェン生誕250周年記念第一弾!
自然が育む生命の躍動が、愛と喜びの感動を呼び起こす

日本人かつ女性として世界で初めてチャイコフスキー国際コンクール(ピアノ部門)を制した上原彩子のダイナミックな演奏で贈る、協奏曲の一大叙事詩『皇帝』。エネルギッシュで感情あふれる音を生み出す広上淳一が、自然と生命への賛歌を歌い上げる『田園』。時を超え、人々を魅了し続ける2大プログラムをお届けします。

上原彩子
(ピアノ)
©武藤章

広上淳一
(指揮)
©Masaaki Tomitori

下野竜也
(指揮)
©Naoya Yamaguchi

三浦文彰
(ヴァイオリン)
©Yuji Hori

Program 2
11/28(土)
15:00 開演
アイザックスターンホール

ベートーヴェン賛歌 II
～第7番・神々のリズム～

生誕250周年記念第二弾!
「真田丸」コンビが贈るベートーヴェンのロックな魂

世界のコンクールの頂点に立った若き天才ソリスト、三浦文彰が挑む究極のヴァイオリン協奏曲。鋭い感性で快進を続ける熱き九州男児・下野竜也が奏でる、リストが「リズムの神化」と呼び、ワーグナーは「舞踏の聖化」と評した交響曲第 7 番。貴方の心を踊らせる、珠玉のプログラムをお楽しみください。

Program 3
11/29(日)
15:00 開演
アイザックスターンホール

海道弘昭
(テノール)
石田ひかり
(司会／朗読)
©DMS

「ポップス・オーケストラ in みやざき」
My Best Song
～ 忘れられない曲をオーケストラで

あなたの思い出を彩るあの曲、この曲・・・
皆さまからのリクエストとエピソードでつづる、忘れられないベスト・ソングの数々

クラシック曲をはじめ多くの方に馴染みのある、映画音楽、ポピュラーミュージック等の名曲を、宮崎国際音楽祭管弦楽団の演奏でお贈りするシリーズ。県民の皆さまからお寄せいただいた「忘れられない一曲」とエピソードを、石田ひかりの朗読、下野竜也の指揮によるオーケストラ・サウンドでお届けします。

今年はベートーヴェン生誕250周年!

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)

音楽室の肖像画でおなじみのベートーヴェンは1770年に生まれ、今年2020年に生誕250年を迎えました。

聴力を失い32歳には遺書を残すほど精神的に追い詰められましたが、難聴の苦難の中で、自ら芸術に生きる希望を見いだし、不屈の精神によりその後も数多くの名曲を生み出しました。

巻頭コラム

矢野さんのこと

9月、コロナ禍の憂鬱な日々にようやく晴れ間が兆してきました。練習室を利用するお客様の明るい声と笑顔、迎える職員・スタッフの生き生きとした表情…まだ油断はできないものの、私自身もほっとした気分で秋の演劇や音楽の公演準備にかかっています。そんな中でいささか淋しい気分になるのが、劇場の名物職員、矢野恒章さんの退職でした。

矢野さんは劇場の総務課長として11年半にわたり諸々の業務を裏方に徹して支えてきた人です。職員の勤務管理から経理、人事、外部への業務の発注、理事会や評議員会の運営、県庁への各種の報告と連絡調整…といった仕事に加えて館長である私の日程調整と管理、更には企画や広報、会館利用の現場のもめごとへの対応。よくもまあこれだけ走り回れるなあと感心してきました。

彼は音楽祭が始まって間もない頃に県庁から3年間出向していました。東京から来る若い演奏家たちをニシタチの安い居酒屋のファンにしたのは彼だったのではと私は思っています。よく飲みよくしゃべる明るい酒で、60歳過ぎて再び劇場に来てからは若い職員の悩みごとの相談役でもありました。時に現場の仕事の進め方などに私が不満や怒りをぶつける相手も矢野さんでした。彼はじっと耐えつつ柔軟に着地点を探ってくれたものです。

国際音楽祭の25年は、確かにスターンさんや徳永二男さんたち演奏家の方たちの功績と、タキシードクラブやボランティア会の皆さんの多大な支援によって築かれてきたものですが、忘れてならないのはかつて出向して来たり、退職後に劇場で働いた県庁マンたちの献身もまた大きいと私は思っています。

あるコンサートで東京から来たソリストの方がステージ上で倒れたことがあります。救急車を呼び誘導したのが矢野さんでした。楽屋口に着いた救急隊員の行動に私は驚きました。出迎える矢野さんに対して隊員たちが素早く敬礼したのです。「彼らは教え子なんですよ」と矢野さんは照れたようにひと言。かつて消防学校に勤務した時代の彼に世話になった若者たちでした。様々な違う領域の仕事を経験してきた県庁マンたちが、それゆえに少し肌合いの違う劇場の仕事に愛着を持ち、県立劇場らしさを作り上げてきた…矢野さんはその代表選手だったかもしれないと、彼の不在が始まった今年の秋に思うことしきりです。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場
理事長　佐藤寿美

歌劇 400歳のカストラート

The 400-year-old Castrato

朗読
大和田 獏

朗読
大和田美帆

企画原案／選曲／カウンターテナー
藤木大地

Photo:
Katsumi Kajiyama
Hair & Makeup:
杉山裕則(atelier pink)
岩下倫之(Leinwand)

400歳のカストラート～あらすじ～

主人公の「ダイチ」はカストラートとして、性別や人種をも超えた特別な歌声で世間を魅了していた。だが、この声でいつまで歌うことができるのか…。思案する「ダイチ」に、“永遠の命を授けましょう”という謎の声が聞こえる。

提案を受け入れ、絶えることなき生を歩み出す「ダイチ」。人々との出会い、歓び、葛藤、苦悩を越え、彼がその先に見るものとは――。

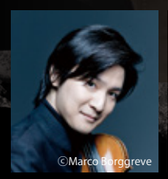
バロックの時代から現代へ、400年の音楽史とともに、永遠とも思える時を生きたカストラートの物語。

©Daisuke Omori

平 常（たいら じょう）
脚本／演出／美術

加藤昌則
音楽監督／作曲／編曲／ピアノ

弦楽四重奏

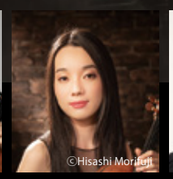


©Marco Borggreve

成田達輝
ヴァイオリン

©Kei Uesugi

坪井夏美
ヴァイオリン



©Hisashi Moriguti

田原綾子
ヴィオラ

©Kei Uesugi

笹沼 樹
チェロ

歌劇『400歳のカストラート』を、宮崎で上演できることを本当にうれしく思っています。

2年前、東京文化会館と新しい舞台作品を創ることになり、筋書きを考える中で、約400年前から活躍し、その後「禁止されて世の中からいなくなった」カストラートが、もし「禁止されず現代にも存在したら」、どんな音楽史が生まれていただろう?と想像したのがこの物語の始まりでした。

会館から人形劇俳優の平（たいら） 常（じょう）さんを紹介していただき、彼にその後の脚本と演出、美術までをお任せした途端にファンタジーがふくらみ、目に見える形になっていきました。

衣裳や照明、音響、舞台スタッフにもコンパクトながら最高のチームが集まり、会議室で何度も議論を重ねながら、ある400歳の人物の人生を創造していきました。例えば衣裳は、この企画のためだけに時代考証され、この登場人物たちのためだけに誂えられました。

信頼する加藤昌則さんが音楽監督を引き受けてくれたおかげで、古今東西のどんな曲も、オリジナルのよさを残しながら、東京音楽コンクールから羽ばたき、それぞれが第一線で活躍する弦楽カルテットのみんなの演奏にぴったりの加藤アレンジに生まれかわり、新曲「絶えることなくうたう歌」も誕生しました。それはまさに、400年に渡る音楽史そのものです。

考えうる一番小さなサイズで新しいオペラを創り、東京で初演したあとに全国、海外に持ち運ぼう!というコンセプトで発車したこの公演の最初の停車駅が、宮崎なのです。

大和田獏さん、大和田美帆さんの気さくなお人柄とプロフェッショナルな仕事姿に、僕たち音楽家は新鮮な刺激を受け、クラシックな世界をベースに新しい作品を創造することの尊さを学びました。

この作品は、しばらく会えなくてもお互いを思いやることのできる、あたたかい「人」でつくられています。

12月に劇場でお会いしましょう。楽しみにしています。

©hiromasa

藤木大地
カウンターテナー

限りある人の命。
もし永遠の命があれば、
人はどんな人生を歩むのだろうか?

この物語は、カストラートとして
400年の年月を生きた男の物語である。

©堀田力丸

担当者のおすすめポイント

音楽が美しい!

・ウィーン国立歌劇場や新国立劇場等々、世界を舞台に活躍する藤木大地の美しい歌声。
・歌曲からオペラや交響曲(!)まで、古今を代表する20曲超の名曲を美しく紡いでいく、加藤昌則の見事な編曲とピアノ。
・各国コンクール優勝経験者を揃えた弦楽四重奏の、美しいアンサンブル。

舞台美術や衣裳、照明、小道具までもが美しい!

右頁の舞台写真で、その一端をご覧ください。(※贅沢すぎる本物の質感!写真で伝えきれないのが歯がゆい!)

朗読のお二人も美しい!

名優・大和田獏の圧倒的な存在感と、凛とした輝きに満ちた大和田美帆の透明感あふれる魅力的な声、そして語り。

喜怒哀楽の織り成す物語!

笑いあり涙ありの音楽物語。400年も生きていたら、素敵な恋も悲しい別れも、それはもう、いろいろありますよね。それが400年の音楽史と見事に絡んでくるのですから…。

全ての要素を兼ね備えた、美しき総合舞台芸術!!

一言で言うと「一粒で何度おいしいのか!」というくらい贅沢な公演。これぞオペラ。これぞ総合芸術。まずは予告編をぜひご覧ください。

カストラートとは?

少年の声を保つために去勢した男性歌手のことを指し、16世紀から18世紀頃に活躍していました。女性歌手の高い音域と男性の肺活量を持ち合わせており、強く美しい高音と独特な音色で、当時の人々を魅了していたといわれます。

ただし人道的な理由からカストラートは廃止され、現在は裏声で高い音域を歌う男性歌手のカウンターテナーなどがそのパートを務めています。

公演情報

歌劇『400歳のカストラート』

12月13日(日)　開場13:15　開演14:00
会場:メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) 演劇ホール

【曲 目】ヴィヴァルディ:歌劇『ジュスティーノ』より“喜びと共に会わん”
ヘンデル:歌劇『オルランド』より“私に怪物や魔物と戦わせてくれ”
モーツァルト:モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」K618
ヨハン・シュトラウス2世:喜歌劇『こうもり』より“お客を呼ぶのが好き”
ラフマニノフ:14の歌より 第14曲「ヴォカリーズ」Op.34-14
加藤昌則:絶えることなくうたう歌　他、様々な作曲家の作品から選曲

予告編公開中!

HPおよび
YouTubeチャンネルで
曲目をCheck!

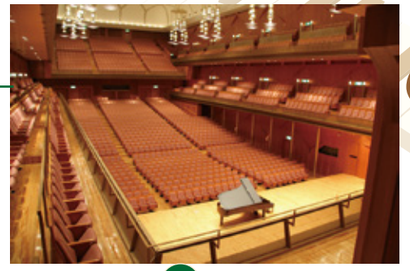
劇場ホールの座席を徹底解剖！

「あの座席からはどんな見え方？」これを知れば劇場の公演がもっと楽しくなる！

チケットを買うときに、座席からの舞台の見え方が気になったことはありませんか？そんな疑問を解消するために、ホールの座席をくまなくリサーチしました。「あの席はこんな見え方するんだ！」という新しい発見があるはず。座席を選ぶ際の参考にしてみてください。

アイザックスターンホール

ヴァイオリンの巨匠アイザック・スターンの名をとったコンサートホール。国産最大級のパイプオルガンを有したクラシック音楽専用ホールです。音楽効果を限界まで追求した理想的なシューボックススタイルは、オーケストラの公演時に「十分な音量」と「豊かな響き」を堪能することができます。



指揮者の表情が見えて出演者側からの景色も楽しめる希少な席。

8 R3 列 2 番

ステージの目の前で息づかいも感じられる贅沢なお席です。

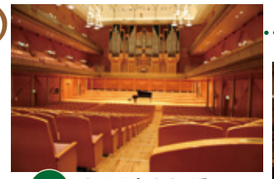
1 1 列 16 番

2 9 列 10 番

3 L1 列 34 番

4 L5 列 53 番

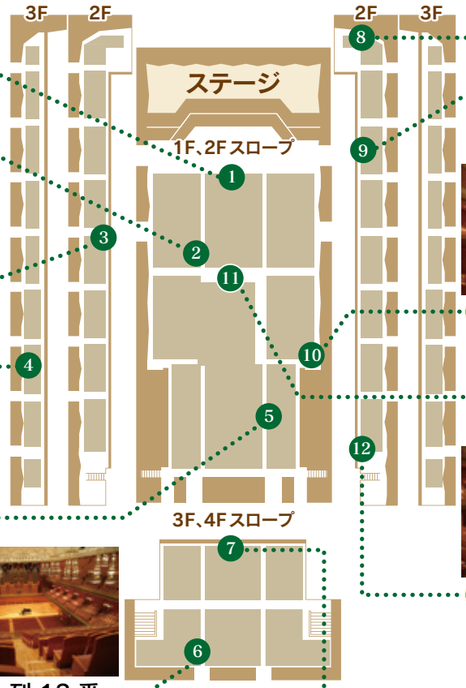
豊かな残響を楽しめます。周囲の雑音も気になりません。



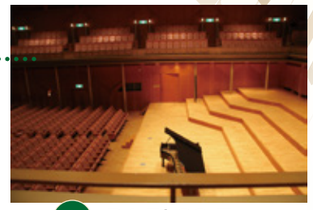
5 25 列 23 番

6 41 列 13 番

コンサートホール座席図



10 19 列 32 番



9 R1 列 20 番

11 11 列 16 番

12 R1 列 67 番

豆知識

ホールでひときわ目を引くパイプオルガン。夜神楽で使われる竹の「篠笛」など、宮崎ならではの音色を奏でます。

内装の材料には宮崎県産のケヤキやミズメザクラを使用しており、暖かみを醸し出します。

壁面には木の照明がやさしく灯ります。

コンサートホール全体の雰囲気を楽しめます。

7 31 列 19 番

スタッフおすすめの席はココ！

3・4階席の31列目周辺

意外と知られていない、舞台正面のバルコニー席。舞台全体を見渡すことができて、楽器の配列や出演者全体の動きも鑑賞できます。劇場スタッフもこの周辺の席を密かなお気に入り席にしているとか…。みなさんも「Myお気に入り席」を探してみてはいかがでしょうか♪

イベントホール

音楽、演劇、舞踊など多様な利用形態に対応できる多目的小ホールです。客席の椅子は移動可能で、座席数、形態を自由に設定できます。

式典や集会、講演会の使用例

移動可能な椅子で会場を自在に設定

ピアノの発表会など様々な利用にも対応

演劇ホール

舞台から客席最後部までの距離を最小（27.5m）に抑えて、舞台をより近くに感じることができるホールです。余裕ある広さのステージ面積、音響反射板、オーケストラピット、小迫り、花道などの設備を備え、多様な舞台芸術に対応します。

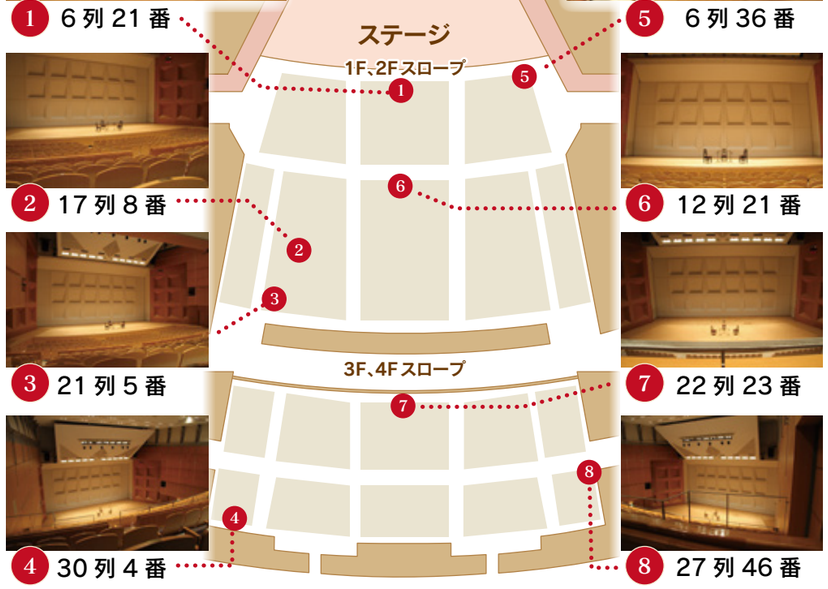
演劇やダンス公演、講演会など多彩な演目が上演可能

大迫力の最前列。ステージがとても近く特別感を味わえます。

1 6 列 21 番

5 6 列 36 番

演劇ホール座席図



2 17 列 8 番

6 12 列 21 番

3 21 列 5 番

7 22 列 23 番

4 30 列 4 番

8 27 列 46 番

メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）　自主事業公演チケット情報

【延岡公演】
10月31日(土)・11月1日(日)
開場13:30　開演14:00
延岡総合文化センター 小ホール

「新 かぼちゃといもがら物語」#5　チケット発売中
『神舞の庭』
【 作 】長田育恵　【演出】立山ひろみ
【出演】大沢 健、東風万智子、貴島 豪、日髙啓介、平 佐喜子、成合朱美、森川松洋、高野桂子、石倉来輝、原田千賀子
全席自由　一般 3,500円(3,100円)
(日時指定)　U25割 1,500円　ペア割 6,000円(5,400円)
※東京公演12月11日(金)～13日(日)　会場:東京芸術劇場 シアターウエスト

11月22日(日)
開場13:15 開演14:00
(終演15:30予定)
イベントホール

ヒカリトカゲノシンワ　11月1日チケット発売
【出演】川村亘平斎(影絵師)、宮内康乃(作曲家)
県内から公募であつまったワークショップ参加者
全席自由　おひとり 500円(3歳以下のお子様は無料)

11月25日(水)～11月29日(日)
アイザックスターンホール

宮崎国際音楽祭 特別公演「オータム・クラシック 2020」　詳細はP1・2　チケット発売中
Program1　ベートーヴェン賛歌Ⅰ～『田園』・愛と喜びの風景～
11/25(水)19:00開演
Program2　ベートーヴェン賛歌Ⅱ～第7番・神々のリズム～
11/28(土)　15:00開演
Program3　「ポップス・オーケストラ in みやざき」
My Best Song ～忘れられない曲をオーケストラで
11/29(日)15:00開演
全席指定　S席 8,000円(7,200円)／A席 6,000円(5,400円)
B席4,000円(3,600円)／C席2,000円(1,800円)
U25割 全席種半額
親子割(小・中学生＋一般、A席のみ)6,500円

12月13日(日)
開場13:15　開演14:00
演劇ホール

歌劇『400歳のカストラート』　詳細はP3・4　チケット発売中
【企画原案/選曲/カウンターテナー】藤木大地
【脚本/演出/美術】平 常(たいら じょう)
【音楽監督/作曲/編曲/ピアノ】加藤昌則
【朗読】大和田 獏、大和田美帆
【弦楽四重奏】成田達輝、坪井夏美(ヴァイオリン)
田原綾子(ヴィオラ)、笹沼 樹(チェロ)
全席指定　一般 5,000円(4,500円)／U25割 2,500円

12月23日(水)
開場10:15 開演11:00
イベントホール

はじめてのクラシック♪ #6 ～ソプラノ(うた)～　受付終了
【出演】田島千愛(ソプラノ)、片野郁子(ピアノ)
全席自由　大人500円／子ども(未就学児)無料

2021年 1月10日(日)
開場13:15　開演14:00
アイザックスターンホール

ウィーン・リング・アンサンブル 宮崎公演　<予定>　会員:11月8日(日)　一般:11月15日(日)
【出演】ライナー・キュッヒル(ヴァイオリン)
ダニエル・フロシャウアー(ヴァイオリン)
ハインリヒ・コル(ヴィオラ)、シュテファン・ガルトマイアー(チェロ)
ミヒャエル・ブラデラー(コントラバス)
カール＝ハインツ・シュッツ(フルート)
ダニエル・オッテンザマー(クラリネット)
アレックス・ラドシュテッター(クラリネット)
ロナルド・ヤネシッツ(ホルン)
全席指定　S席6,000円(5,400円)／A席4,000円(3,600円)
B席2,000円(1,800円)／U25割 全席種半額
親子割(A席のみ)4,500円

1月16日(土)・1月17日(日)
開場13:30　開演14:00
イベントホール

こどももおとなも劇場＃5「卵の中の白雪姫」　会員:11月8日(日)　一般:11月15日(日)
【 作 】別役実　【演出】柄本明
【出演】劇団東京乾電池メンバー
全席自由　一般 2,500円(2,300円)／U25割 1,000円
(日時指定)　親子割(4歳から中学生＋一般)3,000円

1月20日(水)
開場10:15　開演11:00
大練習室2

はじめてのクラシック♪ #8 ～フルート～　11月1日受付開始
【出演】壽山智美(フルート)、日髙裕美(ピアノ)
全席自由　大人500円／子ども(未就学児)無料

Attention(ご注意)
◎記載情報は変更になる場合があります。
◎(　　)内はくれっしぇんど倶楽部会員価格です。
◎U25割は鑑賞時25歳以下が対象。その他の割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。
◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。※一部公演除く
◎託児サービス(有料・事前申込要)がご利用いただけます。※一部公演除く

カワムラ コウヘイサイ
影絵師・川村亘平斎

ミヤウチ ヤスノ
作曲家・宮内康乃

ヒカリトカゲノシンワ

失われつつある日本各地の民話や伝説、記憶の底に眠る物語を、その土地の人々とともに「影絵」で蘇らせる影絵師・川村亘平斎。宮崎県内にも、多くの民話が存在しています。「ヒカリトカゲノシンワ」は、県内から公募で集まったワークショップ参加者とともに、宮崎の民話をベースに今の自分たちにつながる物語を創作し、影絵と音楽で上演する舞台です。

日時　11月22日(日)
13:15 開場　14:00 開演

会場　イベントホール

おはなし
七ツ山の三ツ山太郎・諸塚
銀鏡の一つ目小僧・西都
油津のオキ鯨・日南
水無川・宮崎市
※変更になる場合もございます。

企画・制作・発行／公益財団法人宮崎県立芸術劇場　宮崎県宮崎市船塚3-210 TEL0985・28・3208
印刷・製本／藤屋印刷株式会社　宮崎県宮崎市橘通西1-4-14 加田屋ビル2F TEL0985・32・5380

お問合せ
公益財団法人 宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
http://www.miyazaki-ac.jp/
TEL.0985-28-3208　FAX.0985-20-6670
Twitterとfacebook随時更新中！「フォロー」と「いいね！」お待ちしています。